

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900086		
法人名	株式会社 ウェルネス・プランニング		
事業所名	グループホーム ウェルネス津川 東ユニット		
所在地	岡山県高梁市津川町今津1826-1		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 28 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人の思いに寄り添い、その人らしく暮らし続けられるよう支援しています。職員一同「笑顔」を大切に、利用者と地域の方・ご家族との関係も大切にしたいと考えています。コロナ禍で行事、面会等が制限されているが、施設内で楽しめるよう恒例の行事は規模を縮小し、工夫しながら実施しています。ご家族へは電話や広報誌を通じて利用者の様子が伝えられるようにしています。入退居により、新しく入居された方、入居中の方双方が環境の変化に戸惑われることもあるが、その都度、管理者・ケアマネと職員が協力してケアの統一ができるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390900086-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 11 月 15 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者がやりたいことをする」をモットーに、職員全員が利用者の人生背景を大切にしながら、明るい笑顔で接している。農業を営んでいた利用者は、春には競争するように玉ねぎを収穫し、秋には毎日柿を取って食べていて、活気に満ちていた。歩くことが得意な利用者は、健康を維持するため、散歩を日課にしていた。外に出かけようとしている利用者があると、職員がすぐに駆け付けていて、事業所の周りを一緒に散歩することで満足感を得られているのも、利用者が怪我をすることなく穏やかに、そして楽しく過ごして欲しい管理者とケアマネジャーの想いが一つになっているからであろう。それは、アイコンタクトから職員の次の行動を予測して鍵や書類の受け渡しをしたり、利用者の行動への気づきから、職員の応援隊としてフォローに当たったりしていることにも表れている。職員も、ふたりの想いに気付いているから、利用者へのケアを手厚くしたい願いが自然と溢れ出ていた。雄大な山々の様に広く優しい心が一人ひとりから感じ取れ、事業所全体をも柔らかく包み込んでいた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し、申し送り時に唱和し念頭に置くことで実践につなげている。毎月の会議で入居者の思いを共有し理念に沿った目標を立て実践につなげている。	理念の「入居者中心の安全で安心して暮らせる生活を支援します」は、事務所や玄関に掲示している。また、朝礼で読み上げることで職員に浸透していて、理念に基づいたケアが行われている。新たに職員が入ると、ホーム長がオリエンテーションを行うとともに、各ユニットリーダーがケアのあり方について手厚く教えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小中学校が交流に來られたり出張認知症カフェを月一回2カ所交互に行っている。(今年度は新型コロナウイルスの影響で中止することもあった)	認知症に対する理解者を増やす取り組み(認知症サポーターキャラバン)があり、そのメンバー(キャラバンメイト)となっている職員が、地域包括支援センターの職員と一緒に小・中学校を訪問し、寸劇を行った。10月の秋祭りでは、コロナ禍であることを踏まえ、地域住民が、事業所の駐車場まで、神輿を担いできてくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校や市民センターで認知症サポーター養成講座を開催したり、認知症カフェを通じ理解や支援をしてもらっている。(今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、例年より開催回数は減少)	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じホームの活動状況や入居者の様子、ヒヤリハット、行事・研修の報告をしている。行事の際には内容について相談、参加してもらっている。(今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、すべての行事を入居者・職員のみでの開催)	コロナ禍であっても、運営推進会議は継続して開催している。新型コロナウイルスが蔓延するまでは利用者も参加していたが、現在は感染回避のために参加を見送っている。情報共有ができていない他、利用者の楽しみとして「餅つき」をしてはどうかとの提案があり、毎年継続して行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、認知症カフェに参加してもらっている。認知症サポーター養成講座を市役所・社会福祉協議会等と協力し開催している。	管理者が市との窓口になっていて、その都度、内容をホーム長に報告している。相談し合える関係が築けていて、地元の特化した情報を受け取ることもできている。市とともに「認知症理解推進キャンペーン」で、パネル展示や相談会にも取り組んだ。キャラバンメイト増員のため、市に養成講座の開催を依頼したこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについての社内研修を定期的に開催したり各ユニット会議において禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解するよう話し合い、廃止に取り組んでいる。	身体拘束委員会で話し合っている他、社外の方を招いて、虐待について研修を行っている。研修は「何が虐待かを理解する」貴重な場となっていて、毎月のユニット会議で再確認することで、ケアへの意識を高めている。勝手口から外に出たい利用者には、職員が付き添っていて、穏やかな気持ちで過ごせるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修(社外から講師を招き)を定期的で開催し、虐待防止の理解を深めている。各ユニット会議を利用し研修に参加できなかった職員にも周知徹底させ虐待につながる行為が見過ごされないよう話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に後見人をして下さった司法書士や社会福祉士から制度について学ぶ機会を作っている。家族と連絡を取りながら必要に応じ活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、利用契約・重要事項について丁寧に説明し、理解してもらったうえで契約している。疑問点については都度対応するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに「意見箱」を設置している。面会時にご家族から意見や要望を聞くようにし、ユニット会議・リーダー会議で報告し全職員で共有している。	利用者からの意見は、直接聞き取ることが多く、申し送りノートや介護記録に記載し、全職員で共有している。家族からは、「(餡が大好きな)利用者に餡を渡したい」、「くつや服を新しいものに変えてあげたい」との要望があり、事業所も受け入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やリーダー会議で意見・要望を自由に発言できる機会を設けている。各リーダーは現場の職員からの意見・要望等を聞き会議以外でも自由に相談できるようにし、運営に反映させるよう努めている。	聞き上手の管理者がゲートキーパー役となり、職員の意見を吸い上げている。シフトを組む時には、休日の希望をできるだけ通し、月に1度は連休を入れることで、働きやすい環境を目指している。利用者のケアの方針は、各ユニットリーダーが管理者に報告した際に擦り合わせ、会議で周知している。	風通しが良いからこそ、支援のベクトルを合わせる工夫をしてみたいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給、年2回の賞与支給のほか資格取得を推奨し取得のための一部補助、資格手当等を支給している。受講・受験できるよう勤務調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア形成訪問事業を活用しての自施設研修や接遇研修のほか社外での研修や講習会に出席、ユニット会議等で研修報告の機会を設けている。ケアマネや管理者等による職員研修をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他職種交流事業及び介護支援専門員の交流会、キャラバンメイト・認知症カフェ連絡会議に出席し同業者との交流を図り意見交換等し、職員間で共有している。(今年度は新型コロナウイルスの関係で開催が大幅に減少)		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で家族からご本人の様子や思い、不安等をしっかり聞きプラン作りに役立てている。笑顔と穏やかな声かけで安心感を持っていただける雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安、困っていることを聞きサービス内容を検討するようにしている。いつでも遠慮なく意見が言えたり相談ができる雰囲気作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	毎月ユニット会議を開催し必要な支援を話し合っている。定期の会議以外でも状態の変化が見られた際には都度話し合いの場を設け、本人とご家族の現状に留意し、一緒に支援方法を決めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能に応じ自分のことだけではなく、清掃、食事の支度・後片付け、洗濯物たたみ等を一緒に行っている。一人一人が役割を持てるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に本人の日頃の様子を伝え常に情報を共有し自然に関わりが持てるように努め、ともに本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人が来やすい雰囲気づくりに努めている。新型コロナウイルスの関係で自由に面会ができなくなってからはガラス越し又は暖かい時には戸外での面会、電話での会話等関わりが保てるように支援している。	面会は玄関先のベンチで行っていて、いつでも誰でも行える様になっている。利用者同士がベンチに腰掛け、会話に花を咲かせる光景を調査員も目の当たりにした。事業所内にある畑も、季節の野菜が実っていて、いずれも馴染みの場となっている。利用者が電話をする日は、基本土日としているが、要望があれば、その都度家族や知り合いに連絡を取り、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の感情の変化を理解したうえで、職員が間に入りクッションになったり橋渡し役をしながら孤立、不穏にならないよう努めている。(職員は常に中立の立場で対応している)レクリエーションや行事等で入居者同士の交流を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には転居先等に情報提供を行い、転居先等の相談員とも近況や過去の情報のやり取りをすることもある。ご家族へも困り事があればいつでも相談に来られるよう声を掛け連絡を絶ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からこれまでの暮らしぶりを聞いたりホームの生活の中で本人の意向を汲み取るようにし、一人一人の思いや希望を聞き、職員間で共有し支援に努めている。	言葉を発しない利用者の意向は、家族からの聞き取りを大切にしている。お風呂場では、利用者職員との距離が近くなることから、「～が好き」といった言葉がこぼれることが多く、申し送りノートに書き留め、職員全員で共有している。できる限り想いを叶えてあげられるよう、日頃の何気ない会話からも読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や思い出話、家族からの話を聞き、生活歴の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕のバイタルチェック、表情等の様子観察をし、身体面・精神面の日々の様子を記録に残し職員間で情報を共有したうえで、状態変化の際にも対応できるようにしている。ケアプランに本人のできる事を組み入れプランに沿ったケアの実践を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとに定期的にカンファレンスを行い現状のニーズに沿った介護計画を作成していくよう努めている。月に一回のユニット会議を行っているほか毎月ケアプランの評価を行っている。	ケアプランは入居時に2週間の暫定を作り、1ヶ月、3ヶ月、以降は6ヶ月ごとに更新している。ケアプランは随時見直していて、ユニット会議の議題にもあげることによって再確認している。生活の移動手段が徒歩中心だった利用者には、一日の生活に歩行を多く取り入れるように計画していて、利用者一人一人に合ったケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の大切さを認識させ、日々の様子や状態の変化など見逃すことのないよう記録し、ケアの実践、見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少人数での外出や個人での買い物の外出支援や病院受診等必要な時は対応できるよう取り組んでいる。(今年度はコロナの影響で買い物は控えドライブを兼ねて桜やコスモス等見に出かけた)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は各種ボランティアに在所してもらうなど安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しているが、今年度はコロナの影響もあり、ボランティアに作ってもらっている畑の農作物を収穫したり草取りをするなどした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞き家族の協力を得ながら適切な医療が受けられるよう支援している。	入居時にかかりつけ医を選択できるが、ほとんどの利用者が、事業所に往診するかかりつけ医を選んでいる。かかりつけ医には何でも言える関係ができていて、利用者の様子がおかしいと伝えた時には、夜中でも駆け付けてくれたことがある。歯科も往診があり、義歯の作成や治療がある場合は通院している。他科受診は、基本家族が連れて行くが、職員が同行することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝夕のバイタルチェック、入浴時の全身観察等、日々の心身の状態の気づきを管理者に伝え、異常を発見した時はいつでもかかりつけ医に相談・受診できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療関係者との連絡を密に取り、情報交換や相談をしている。入院中、利用者が不安なく過ごせるように家族や医療関係者に施設での生活ぶりを情報提供するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合における対応について家族から希望を聞き、必要に応じてホーム関係者、家族、医師とで話し合う機会を設けチームでの支援に努めている。万が一の事態の対応についてご家族の要望等を聞いておくようにしている。介護度が上がった時、今後の希望等を再確認している。	看取りのマニュアルを整備して、実施もしている。最終的に病院で治療される利用者が多いため、利用者、家族、医師、職員で相談し合い、方針を決めている。医師が親身に関わっていて、夜中に容態が急変した際に来所してくれたことには、家族も感銘を受けていたと話す。	看取りの質をより高めてみてはいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にAED業者に来てもらい使用方法の講習をもらったり避難訓練時に対応の訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、避難訓練を地域の方、地元消防団・消防署職員・消防設備業者等の協力を得て行っており、万が一の火災・自然災害等に備えている。実際に消火器を使用し消火の訓練も行っている。	年2回、昼と夜の火災を想定して、通報・避難訓練を実施している。コロナ禍であっても、消防署が訓練に協力していて、避難場所や避難方法の指導を受けた。職員が消防団のように訓練に取り組むことで、緊張感のある訓練になっている。備蓄のカップ麺を食卓に並べ、提供の流れを確認するとともに、期限を切らさないようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう自己決定と尊厳を大切にし相手の立場に立った対応を心がけている。また、個々に応じた声かけや対応を心がけている。	呼称は、苗字に「さん」を付けて呼んでいる。苗字が同じ場合は、名前に「さん」を付けているが、1人の時には、苗字で言葉をかけるようにしている。排泄失敗時にも慌てず、大きな声は出さないことで、周り気づかれないように配慮している。居室に入る際には、必ず了解を得ている。年に3回実施している接遇研修が功を奏している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き自己決定に結びつけている。表情やしぐさなどから思いを汲みとり自己決定に近づけるよう努力している。また、言いやすい環境作りにも心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大まかに決めてあるが、日々本人のペースで生活できるよう一人一人の希望を聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や状況に応じた服装やその人らしさを大切にしている。希望があれば理・美容室等へお連れするようにしている。(約3か月おきにホームへ散髪にも来てもらっている)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を聞きながらメニュー作りをしている(冷蔵庫等にある材料で)。できる方には職員と一緒に下ごしらえや食器拭き後片づけ等をしていただいている。希望で朝食がパン食の方もいる。	利用者の好き嫌いは、入居時に家族から聞く他、普段の食事風景から判断している。冷蔵庫の中と相談し、3食全て手作りで提供していることから、一人ひとりの好みに合わせて、個別にメニューを変えることもある。誕生日に赤飯やちらし寿司が出ると「あなたのおかげでお寿司が食べれた」と、利用者間で会話が飛び交っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えメニュー作成をしている。状態に合わせて食事の形態(ミキサー食・トロミ・キザミ・高カロリー食)やメニューの変更をしている。一人一人の食事量・水分摂取が把握できるよう記録し、必要に応じ食事介助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。職員が側で見守り声かけをしながら丁寧に磨けるよう支援している。必要な入居者には椅子を用意し座ってできるようにもしている。歯ブラシ・コップ等は定期的に消毒を行い清潔を保つようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のタイミングなどを把握し、声かけ・誘導している。尊厳を保ちながらあからさまな声掛けはせずトイレの誘導をしている。排泄チェック表を活用している。	排泄チェック表を活用した結果、紙パンツから布パンツに変わった事例がある。現在、布パンツの利用者が数名いて、金銭的にも優しくなっている。利用者全員がトイレで排泄できているが、夜間は安眠を優先して、パッドを着ける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通に良い食事の工夫や水分をしっかり摂取できるよう声かけしている。散歩やホール内を音楽に合わせ歩くなど運動をし身体を動かしている。便秘がちな方には医師の指示のもと、緩下剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まった入浴日はあるが、本人の希望で入浴できるようにしている。浴槽に入れない方には足湯をしながらのシャワー浴をするなど個々に沿った支援をしている。	週に2回、入浴の機会を設けていて、利用者の希望から、週6回入浴されたこともある。自宅で入浴できなかった利用者が、事業所では入浴できている。時間や、言葉をかける人を変えて、入浴を促して、トイレからリビングに戻る流れの中で誘うことも、入浴の機会に繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じ気持ちよく眠れるよう室温や布団を調整している。眠れない時はお茶を飲むなどして職員と一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効等、記したものを個人ファイルに綴じてあり、職員は常に確認するようにしている。内服までに二重三重のチェックをしている。気になることは管理者に報告し医師に相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、パズル等好きな事をしたり、皆で歌を唄う等して過ごせるよう支援したり、炭酸飲料やパン食など嗜好品を提供できるようにしている。今年の秋祭りにはお神輿が駐車場まで来てくれて神主さんにお祓いをしてもらった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花や催し物を見にドライブに行ったり、本人の希望を聞きながら外出支援をしている。少人数で桜やコスモスの名所に出掛けている。コロナ前には秋祭り、地域の文化祭に隣の市民センターに数名が出かけていた。	高梁川沿いの桜や病院近くの藤棚などを見に行き、自然に触れている。ドライブがてら買い物へ出掛けた際には、花の苗を買ったり、通院帰りに自宅付近の風景を見て楽しんでいる。外出を自粛している代わりに、事業所の周りを散歩している。日本庭園風のスペースや所内にある畑が季節ごとに彩っていて、心を躍らせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理することが難しくトラブルのもとになる可能性もあり、事務所で小口として預かっている。必要に応じ買い物をしたり、外出時に好きなおやつを買うことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば知人や家族に電話がかけられるようにしている。手紙やハガキのやり取りが自由にできるようにしている。(職員が預かり投函している)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁を季節に応じてぬり絵や貼り絵を飾ったり、居室入口には折々の行事等の壁飾りを作り掛けている。ホールでレクをしていない時は好みの曲や静かな曲をBGMとして流している。共有の場所は落ち着いて気持ちよく過ごせるよう工夫している。	ラジオ体操後の歩行訓練を兼ねて、ダンスを踊っている。掲示物の柿の木は、季節に合わせて、木の葉が茂り、実がなり、また葉が落ちている様子を表していて、屋内でも季節が味わえる工夫となっていた。窓から差し込む光は、明るく開放的で、日課のティータイムは、利用者が眩しいくらいに輝いていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席次や配置に気を遣い、気の合う者同士が隣に座れるなど思い思いにリラックスできる空間づくりを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品や家で使っていたものなどを自由に持ち参し、居心地良く過ごせるよう工夫している。エアコンは各居室で調節可能で好みの温度に各自で調節したり職員が希望を聞き調節している。	木彫りの人形を自分で作ったり、絵を描いたり、自分の時間が作りやすい居室となっている。体に馴染んだ椅子を持ち込んだり、果物の種を大切に保管したりする利用者もいて、一人ひとりが過ごしやすい空間として質を高めていた。職員が毎日清掃することで清潔さを保つとともに、導線を確保することで、安全面にも配慮していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	慣れた環境で安心して過ごしてもらいながら、衣類の脱ぎ着、洗濯物の片付け等、出来ることをしてもらおう声かけ見守りながらしてもらっている。いつでも自由に趣味(竹細工)に専念できるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900086		
法人名	株式会社 ウェルネス・プランニング		
事業所名	グループホーム ウェルネス津川 西ユニット		
所在地	岡山県高梁市津川町今津1826-1		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 28 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人の思いに寄り添い、その人らしく暮らし続けられるよう支援しています。職員一同「笑顔」を大切に、利用者と地域の方・ご家族との関係も大切にしたいと考えています。コロナ禍で行事、面会等が制限されているが、施設内で楽しめるよう恒例の行事は規模を縮小し、工夫しながら実施しています。ご家族へは電話や広報誌を通じて利用者の様子が伝えられるようにしています。入退居により、新しく入居された方、入居中の方双方が環境の変化に戸惑われることもあるが、その都度、管理者・ケアマネと職員が協力してケアの統一ができるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390900086-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 11 月 15 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者がやりたいことをする」をモットーに、職員全員が利用者の人生背景を大切にしながら、明るい笑顔で接している。農業を営んでいた利用者は、春には競争するように玉ねぎを収穫し、秋には毎日柿を取って食べていて、活気に満ちていた。歩くことが得意な利用者は、健康を維持するため、散歩を日課にしていた。外に出かけようとしている利用者があると、職員がすぐに駆け付けていて、事業所の周りを一緒に散歩することで満足感を得られているのも、利用者が怪我をすることなく穏やかに、そして楽しく過ごして欲しい管理者とケアマネジャーの想いが一つになっているからであろう。それは、アイコンタクトから職員の次の行動を予測して鍵や書類の受け渡しをしたり、利用者の行動への気づきから、職員の応援隊としてフォローに当たったりしていることにも表れている。職員も、ふたりの想いに気付いているから、利用者へのケアを手厚くしたい願いが自然と溢れ出ていた。雄大な山々の様に広く優しい心が一人ひとりから感じ取れ、事業所全体をも柔らかく包み込んでいた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し、申し送り時に唱和し念頭に置くことで実践につなげている。毎月の会議で入居者の思いを共有し理念に沿った目標を立て実践につなげている。	理念の「入居者中心の安全で安心して暮らせる生活を支援します」は、事務所や玄関に掲示している。また、朝礼で読み上げることで職員に浸透していて、理念に基づいたケアが行われている。新たに職員が入ると、ホーム長がオリエンテーションを行うとともに、各ユニットリーダーがケアのあり方について手厚く教えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小中学校が交流に来られたり出張認知症カフェを月一回2カ所交互に行っている。(今年度は新型コロナウイルスの影響で中止することもあった)	認知症に対する理解者を増やす取り組み(認知症サポーターキャラバン)があり、そのメンバー(キャラバンメイト)となっている職員が、地域包括支援センターの職員と一緒に小・中学校を訪問し、寸劇を行った。10月の秋祭りでは、コロナ禍であることを踏まえ、地域住民が、事業所の駐車場まで、神輿を担いできてくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校や市民センターで認知症サポーター養成講座を開催したり、認知症カフェを通じ理解や支援をしてもらっている。(今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、例年より開催回数は減少)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じホームの活動状況や入居者の様子、ヒヤリハット、行事・研修の報告をしている。行事の際には内容について相談、参加してもらっている。(今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、すべての行事を入居者・職員のみでの開催)	コロナ禍であっても、運営推進会議は継続して開催している。新型コロナウイルスが蔓延するまでは利用者も参加していたが、現在は感染回避のために参加を見送っている。情報共有ができていて、利用者の楽しみとして「餅つき」をしてはどうかとの提案があり、毎年継続して行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、認知症カフェに参加してもらっている。認知症サポーター養成講座を市役所・社会福祉協議会等と協力し開催している。	管理者が市との窓口になっていて、その都度、内容をホーム長に報告している。相談し合える関係が築けていて、地元の特化した情報を受け取ることもできている。市とともに「認知症理解推進キャンペーン」で、パネル展示や相談会にも取り組んだ。キャラバンメイト増員のため、市に養成講座の開催を依頼したこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについての社内研修を定期的に開催したり各ユニット会議において禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解するよう話し合い、廃止に取り組んでいる。	身体拘束委員会で話し合っている他、社外の方を招いて、虐待について研修を行っている。研修は「何が虐待かを理解する」貴重な場となっていて、毎月のユニット会議で再確認することで、ケアへの意識を高めている。勝手口から外に出たい利用者には、職員が付き添っていて、穏やかな気持ちで過ごせるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修(社外から講師を招き)を定期的開催し、虐待防止の理解を深めている。各ユニット会議を利用し研修に参加できなかった職員にも周知徹底させ虐待につながる行為が見過ごされないよう話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に後見人をして下さった司法書士や社会福祉士から制度について学ぶ機会を作っている。家族と連絡を取りながら必要に応じ活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、利用契約・重要事項について丁寧に説明し、理解してもらったうえで契約している。疑問点については都度対応するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに「意見箱」を設置している。面会時にご家族から意見や要望を聞くようにし、ユニット会議・リーダー会議で報告し全職員で共有している。	利用者からの意見は、直接聞き取ることが多く、申し送りノートや介護記録に記載し、全職員で共有している。家族からは、「(給が大好きな)利用者に給を渡したい」、「くつや服を新しいものに変えてあげたい」との要望があり、事業所も受け入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やリーダー会議で意見・要望を自由に発言できる機会を設けている。各リーダーは現場の職員からの意見・要望等を聞き会議以外でも自由に相談できるようにし、運営に反映させるよう努めている。	聞き上手の管理者がゲートキーパー役となり、職員の意見を吸い上げている。シフトを組む時には、休日の希望をできるだけ通し、月に1度は連休を入れることで、働きやすい環境を目指している。利用者のケアの方針は、各ユニットリーダーが管理者に報告した際に擦り合わせ、会議で周知している。	風通しが良いからこそ、支援のベクトルを合わせる工夫をしてみたいかがでしようか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給、年2回の賞与支給のほか資格取得を推奨し取得のための一部補助、資格手当等を支給している。受講・受験できるよう勤務調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア形成訪問事業を活用しての自施設研修や接遇研修のほか社外での研修や講習会に出席、ユニット会議等で研修報告の機会を設けている。ケアマネや管理者等による職員研修をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他職種交流事業及び介護支援専門員の交流会、キャラバンメイト・認知症カフェ連絡会議に出席し同業者との交流を図り意見交換等し、職員間で共有している。(今年度は新型コロナウイルスの関係で開催が大幅に減少)		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で家族からご本人の様子や思い、不安等をしっかり聞きプラン作りに役立てている。笑顔と穏やかな声かけで安心感を持っていただける雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安、困っていることを聞きサービス内容を検討するようにしている。いつでも遠慮なく意見が言えたり相談ができる雰囲気作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	毎月ユニット会議を開催し必要な支援を話し合っている。定期の会議以外でも状態の変化が見られた際には都度話し合いの場を設け、本人とご家族の現状に留意し、一緒に支援方法を決めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能に応じ自分のことだけではなく、清掃、食事の支度・後片付け、洗濯物たたみ等を一緒に行っている。一人一人が役割を持てるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に本人の日頃の様子を伝え常に情報を共有し自然に関わりが持てるように努め、ともに本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族・知人が来やすい雰囲気づくりに努めている。新型コロナウイルスの関係で自由に面会ができなくなってからはガラス越し又は暖かい時には戸外での面会、電話での会話等関わりが保てるように支援している。	面会は玄関先のベンチで行っていて、いつでも誰でも行える様になっている。利用者同士がベンチに腰掛け、会話に花を咲かせる光景を調査員も目の当たりにした。事業所内にある畑も、季節の野菜が実っていて、いずれも馴染みの場となっている。利用者が電話をする日は、基本土日としているが、要望があれば、その都度家族や知り合いに連絡を取り、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の感情の変化を理解したうえで、職員が間に入りクッションになったり橋渡し役をしながら孤立、不穏にならないよう努めている(職員は常に中立の立場で対応している)。レクリエーションや行事等で入居者同士の交流を図っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には転居先等に情報提供を行い、転居先等の相談員とも近況や過去の情報のやり取りをすることもある。ご家族へも困り事があればいつでも相談に来られるよう声を掛け連絡を絶ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からこれまでの暮らしぶりを聞いたりホームの生活の中で本人の意向を汲み取るようにし、一人一人の思いや希望を聞き、職員間で共有し支援に努めている。	言葉を発しない利用者の意向は、家族からの聞き取りを大切にしている。お風呂場では、利用者と職員の距離が近くなることから、「～が好き～」といった言葉がこぼれることが多く、申し送りノートに書き留め、職員全員で共有している。できる限り想いを叶えてあげられるよう、日頃の何気ない会話からも読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や思い出話、家族からの話を聞き、生活歴の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕のバイタルチェック、表情等の様子観察をし、身体面・精神面の日々の様子を記録に残し職員間で情報を共有したうえで、状態変化の際にも対応できるようにしている。ケアプランに本人のできる事を組み入れプランに沿ったケアの実践を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとに定期的にカンファレンスを行い現状のニーズに沿った介護計画を作成していくよう努めている。月に一回のユニット会議を行っているほか毎月ケアプランの評価を行っている。	ケアプランは入居時に2週間の暫定を作り、1ヶ月、3ヶ月、以降は6ヶ月ごとに更新している。ケアプランは随時見直していて、ユニット会議の議題にもあげることによって再確認している。生活の移動手段が徒歩中心だった利用者には、一日の生活に歩行を多く取り入れるように計画していて、利用者一人一人に合ったケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の大切さを認識させ、日々の様子や状態の変化など見逃すことのないよう記録し、ケアの実践、見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少人数での外出や個人での買い物の外出支援や病院受診等必要な時は対応できるよう取り組んでいる。(今年度はコロナの影響で買い物は控えドライブを兼ねて桜やコスモス等見に出かけた)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は各種ボランティアに在所してもらうなど安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しているが、今年度はコロナの影響もあり、ボランティアに作ってもらっている畑の農作物を収穫したり草取りをするなどした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞き家族の協力を得ながら適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時にかかりつけ医を選択できるが、ほとんどの利用者が、事業所に往診するかかりつけ医を選んでいる。かかりつけ医には何でも言える関係ができていて、利用者の様子がおかしいと伝えた時には、夜中でも駆け付けてくれたことがある。歯科も往診があり、義歯の作成や治療がある場合は通院している。他科受診は、基本家族が連れて行くが、職員が同行することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝夕のバイタルチェック、入浴時の全身観察等、日々の心身の状態の気付きを管理者に伝え、異常を発見した時はいつでもかかりつけ医に相談・受診できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療関係者との連絡を密に取り、情報交換や相談をしている。入院中、利用者が不安なく過ごせるように家族や医療関係者に施設での生活ぶりを情報提供するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合における対応について家族から希望を聞き、必要に応じてホーム関係者、家族、医師と話し合う機会を設けチームでの支援に努めている。万が一の事態の対応についてご家族の要望等を聞いておくようにしている。介護度が上がった時、今後の希望等を再確認している。	看取りのマニュアルを整備して、実施もしている。最終的に病院で治療される利用者が多いため、利用者、家族、医師、職員で相談し合い、方針を決めている。医師が親身に関わっていて、夜中に容態が急変した際に来所してくれたことには、家族も感銘を受けていたと話す。	看取りの質をより高めてみてはいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にAED業者に来てもらい使用方法の講習をしてもらったり避難訓練時に対応の訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、避難訓練を地域の方、地元消防団・消防署職員・消防設備業者等の協力を得て行っており、万が一の火災・自然災害等に備えている。実際に消火器を使用し消火の訓練も行っている。	年2回、昼と夜の火災を想定して、通報・避難訓練を実施している。コロナ禍であっても、消防署が訓練に協力していて、避難場所や避難方法の指導を受けた。職員が消防団のように訓練に取り組むことで、緊張感のある訓練になっている。備蓄のカップ麺を食卓に並べ、提供の流れを確認するとともに、期限を切らさないようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう自己決定と尊厳を大切に相手の立場に立った対応を心がけている。また、個々に応じた声かけや対応を心がけている	呼称は、苗字に「さん」を付けて呼んでいる。苗字が同じ場合は、名前に「さん」を付けているが、1人の時には、苗字で言葉をかけるようにしている。排泄失敗時にも慌てず、大きな声は出さないことで、周り気づかれぬように配慮している。居室に入る際には、必ず了解を得ている。年に3回実施している接遇研修が功を奏している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き自己決定に結びつけている。表情やしぐさなどから思いを汲みとり自己決定に近づけるよう努力している。また、言いやすい環境作りにも心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大まかに決めてあるが、日々本人のペースで生活できるよう一人一人の希望を聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や状況に応じた服装やその人らしさを大切にしている。希望があれば理・美容室等へお連れするようになっている。(約3か月おきにホームへ散髪にも来てもらっている)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を聞きながらメニュー作りをしている(冷蔵庫等にある材料で)できる方には職員と一緒に下ごしらえや食器拭き等をしていただいている。希望で3食パン食の方も変わりご飯の時等希望で選べるようにしている。	利用者の好き嫌いは、入居時に家族から聞く他、普段の食事風景から判断している。冷蔵庫の中と相談し、3食全て手作りで提供していることから、一人ひとりの好みに合わせて、個別にメニューを変えることもある。誕生日に赤飯やちらし寿司が出ると「あなたのおかげでお寿司が食べれた」と、利用者間で会話が飛び交っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えメニュー作成をしている。状態に合わせて食事の形態(トロミ・キザミ)を変えて提供している。一人一人の食事量・水分摂取が把握できるよう記録し、不足がちな方には声掛けをし摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。職員が側で見守り声かけをしながら丁寧に磨けるよう支援している。必要な入居者には椅子を用意し座ってできるようにもしている。歯ブラシ・コップ等は定期的に消毒を行い清潔を保つようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のタイミングなどを把握し、声かけ・誘導している。尊厳を保ちながらあからさまな声掛けはせずトイレの誘導をしている。排泄チェック表を活用している。	排泄チェック表を活用した結果、紙パンツから布パンツに変わった事例がある。現在、布パンツの利用者が数名いて、金銭的にも優しくなっている。利用者全員がトイレで排泄できているが、夜間は安眠を優先して、パッドを着ける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通に良い食事の工夫や水分をしっかり摂取できるよう声かけしている。散歩やホール内を音楽に合わせて歩くなど運動をし身体を動かしている。便秘がちな方には医師の指示のもと、緩下剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まった入浴日はあるが、本人の希望で入浴できるようにしている。浴槽に入れない方には足湯しながらのシャワー浴をするなど個々に沿った支援をしている。	週に2回、入浴の機会を設けていて、利用者の希望から、週6回入浴されたこともある。自宅で入浴できなかった利用者が、事業所では入浴できている。時間や、言葉をかける人を変えて、入浴を促している。トイレからリビングに戻る流れの中で誘うことも、入浴の機会に繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じ気持ちよく眠れるよう室温や布団を調整している。眠れない時はお茶を飲むなどして職員と一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効等、記したものを個人ファイルに綴じてあり、職員は常に確認するようにしている。内服までに二重三重のチェックをしている。気になることは管理者に報告し医師に相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズル、塗り絵等好きな事をしたり、皆で歌を唄う等して過ごせるよう支援したり、週に何日かはメニュー表を作り好きな飲み物を選べるようにしている。自分のプランターに好きなものを植え散歩を兼ね水やりをしてもらっている(苗は職員と買いに行く)。今年の秋まつりにはお神輿が駐車場に入り神主さんにお祓いをしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節の花や催し物を見にドライブに行ったり、本人の希望を聞きながら外出支援をしている。少人数で桜やコスモスの名所に出掛けている。コロナ前には秋祭り、地域の文化祭に隣の市民センターに数名が出かけていた。	高梁川沿いの桜や病院近くの藤棚などを見に行き、自然に触れている。ドライブがてら買い物へ出掛けた際には、花の苗を買ったり、通院帰りに自宅付近の風景を見て楽しんでいる。外出を自粛している代わりに、事業所の周りを散歩している。日本庭園風のスペースや所内にある畑が季節ごとに彩っていて、心を躍らせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理することが難しくトラブルのもとになる可能性もあり、事務所で小口として預かっている。必要に応じ買い物をしたり、外出時に好きなおやつを買うことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば知人や家族に電話がかけられるようにしている。(本人ができない場合には本人に代わり職員が仲介し会話できるようにしている)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁を季節に応じてぬり絵や貼り絵を飾ったり、居室入口には折々の行事等の壁飾りを作り掛けている。ホールでレクをしていない時は好みの曲や静かな曲をBGMとして流している。共有の場所は落ち着いて気持ちよく過ごせるよう工夫している。	ラジオ体操後の歩行訓練を兼ねて、ダンスを踊っている。掲示物の柿の木は、季節に合わせて、木の葉が茂り、実がなり、また葉が落ちている様子を表していて、屋内でも季節が味わえる工夫となっていた。窓から差し込む光は、明るく開放的で、日課のティータイムは、利用者が眩しいくらいに輝いていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席次や配置に気を遣い、気の合う者同士が隣に座れるなど思い思いにリラックスできる空間づくりを工夫している。居室で過ごすことを希望される方にはホールの様子が分かるよう開放し歌、体操等は居室から参加できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品や家で使っていたものなどを自由に持参し、居心地良く過ごせるよう工夫している。エアコンは各居室で調節可能で好みの温度に各自で調節したり職員が希望を聞き調節している。	木彫りの人形を自分で作ったり、絵を描いたり、自分の時間が作りやすい居室となっている。体に馴染んだ椅子を持ち込んだり、果物の種を大切に保管したりする利用者もいて、一人ひとりが過ごしやすい空間として質を高めていた。職員が毎日清掃することで清潔さを保つとともに、導線を確保することで、安全面にも配慮していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	慣れた環境で安心して過ごしてもらいながら、衣類の脱ぎ着、洗濯物の片付け等、出来ることをしてもらおうよう声かけ見守りながらしてもらっている。いつでも趣味の手芸やパズルができるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない